

第 56 回夏期シンポジウム（講演募集）

テーマ：AI/IoT の粉体工学への応用

共 催：粉体工学と人工知能の融合研究に関するワークショップ、粉体シミュレーション技術利用分科会（日本粉体工業技術協会）

協 賛：化学工学会、日本計算工学会、日本原子力学会、日本機械学会、日本混相流学会

開 催 日：2020 年 7 月 6 日(月)・7 日(火)

講演申込締切：2020 年 4 月 17 日(金)

場 所：法政大学小金井キャンパスマルチメディアホール

ドイツ政府が 2011 年に Industry 4.0 を提唱し、日本では 2016 年に内閣府が策定した第 5 期科学技術基本計画の中で Society 5.0 が提唱され、各国政府が AI（人工知能）や IoT（モノとインターネットの接続）技術を駆使したスマートファクトリーや超スマート社会の実現を目指している。粉体工学は極めて広範囲なものづくりと関わっているため、近未来的に AI や IoT 技術の活用が望まれる。AI と IoT 技術の応用が進めば、試作品を製作せずに仮想空間で設計および生産の検討を行う仮想生産が粉体工学にも浸透するであろう。その一方で、既存の粉体工学技術も仮想生産において極めて重要となる。たとえ AI や IoT 技術が確立しても、粉体工学技術が確立していなければ仮想生産は実現できないためである。すなわち、コンピュータシミュレーションにおける数学モデルの高度化、実験による分析・測定技術の高度化、材料開発技術の高度化が十分になされなければ仮想生産は実現できない。このような背景から、AI/IoT の粉体工学への応用というテーマで夏期シンポジウムを企画する。本シンポジウムでは、AI/IoT に係わる専門家を招き、既存の粉体工学（コンピュータシミュレーション技術、分析・測定技術、材料開発、など）と AI/IoT の融合について議論する。本シンポジウムでは、特に異分野の研究者の積極的な交流を促したい。また、学生の発表を広く募集し、優秀な発表には学生賞を授与する予定である。

世話人：酒井幹夫（東京大学）、飯島志行（横浜国立大学）、森隆昌（法政大学）、三好昭生（インサイト）、後藤邦彰（岡山大学）

講演種別：研究報告、研究速報、技術報告、技術速報、その他

発表形式：口頭発表

申込締切：[講演申込締切] 4 月 17 日（金）

[講演要旨集原稿提出] 6 月 5 日（金）

（発表 1 件につき A4 用紙 2 枚の予定。）

講演申込方法：web サイト <http://www.sptj.jp/event/natsu/> よりお申込み下さい。

注：2021 年の粉体工学会誌 3 月号に、「夏期シンポジウム特集号」を組みます。シンポジウムで発表した内容を、論文、研究ノート、技術資料、解説等として希望される方は、改めて 9 月 7 日（月）までに最終投稿原稿を事務局宛てご提出下さい。投稿原稿に対しては、学会所定の手続きが取られます。

参加費：(先行振込扱い：6月26日(金)振込まで)

会員種別	参加登録費	情報交換会費
維持会員 および賛助会員	1名無料 (2人目から10,000円)	6,000円
事業所会員、個人会員 発表者、共催機関会員	10,000円	6,000円
学生会員	5,000円	2,000円
会員外(発表者以外)	20,000円	6,000円

注1) 今年度は宿泊の手配ならびに昼食の準備を行いませんので各自でお手配ください。

注2) 6月27日以降の受付は、参加登録費および情報交換会参加費のそれぞれに2,000円が加算されます。
(学生会員はそれぞれ1,000円の加算となります)

注3) 事業所会員は規定により1名のみ会員資格で参加できます。

注4) 参加費無料の特典利用は、先行振込期間に申し込まれた場合にのみ有効です。

注5) **参加募集は、5月中旬** 受付を開始いたします。その際上記料金に変更される場合がありますので
予めご了承ください。